第 9 回 奈井江町まちづくり町民委員会 議事録

【日 時】平成 23 年 8 月 10 日（水） 午後 6 時 00 分～午後 7 時 20 分

【場 所】役場（大会議室）

【出席者】委員～12 名（欠席 3 名） 町～10 名

委員	中野忠雄		中村尚子		廣部健二		須崎正寿		山口俊哉	
	鈴木孝一	×	太田裕治		伊藤由紀子		山 節子		横尾良昭	
	川端 篤	×	森本由利江		佐々木勝幸		明石伸子		岩口直樹	×
町	北町長、三本副町長、村上教育長、岩口おもいやり課長、小澤健康ふれあい課長 鈴木教育次長 事務局：碓井課長、相澤係長、遠藤主事、星野主事									

1. 開会 碓井課長

2. 委嘱書の交付 北町長から中村委員、太田委員に交付

3. 中野委員長 あいさつ

大変暑い中、お仕事でお疲れのところお集まりいただきありがとうございます。今年
は春から雨も多く、水稻の仕事も遅れ気味で心配していたのですが、7 月以降天候が回
復し、この 8 月に入ると高温で稲穂も育ってきています。この調子で行くと、平成 20
年の大豊作に匹敵するような見込みです。ただ、最後まで収穫するまではわからないの
ですが、本州で降ったような大雨がないよう願っています。

3 月 11 日の大震災で福島原発も含め、皆様も心を痛めていると思います。新聞に
も載っていましたが、1 週間ほど前に奈井江町でも碓井課長はじめ、11 名の方が宮城
県岩沼市に応援に行かれるということです。私たちも何かできないかと思っていたので
すが、ぜひこの 11 名の方々には私たちの気持ちを汲んで精一杯頑張ってくださいたい
と思います。

今日の議題は 3 点ほどありますけど、みなさんの忌憚のないご意見をいただきながら
進めて参りたいと思いますのでよろしくをお願いします。

4. 町政運営等に関する主な動向について（北町長より）

本日は皆さんお忙しい中、また、暑い中お集まりをいただきありがとうございます。

町政運営に関する主な動向ということで、まず始めに東日本大震災の被災地である宮
城県岩沼市への職員派遣についてお話をしたいと思います。

すでに北海道新聞の報道でご存じの方も多いと思いますが、奈井江町では 8 月 2 日～
9 月 9 日までの約 1 ヶ月間、岩沼市への職員派遣を行っております。

岩沼市とのご縁は、私が代表幹事の 1 人を務める「福祉自治体ユニット」という「介
護保険制度などを中心に、全国の市町村が自治体間協力を行ってより良い福祉サービ
スを提供していこう」という趣旨から結成した団体の加盟自治体の 1 つということになる
のですが、今回の震災で加盟 18 市町村が被害を受け、岩沼市が今回とりわけ被害甚大
であったことから、特に支援活動を行おうというものです。

支援の内容は、岩沼市健康福祉部が所管する被災者生活支援制度、災害弔慰金や災害

住宅手当などの申請受け付けのほか、被災者支援システムへのデータ入力などを行うものです。本町でも特定の職員を長期で派遣することは難しいことから、2名ずつを10日間、うち2日間は派遣期間を重ねて奈井江町の職員同士で事務引き継ぎを行うようにして、現地の方に迷惑をかけないようにしながら、9月までの支援を行うものであります。また、現在、日程調整中ではありますが、私も、早ければ来週にでも岩沼市に入って、井口市長に激励のあいさつを行う予定をしております。

次に高齢者支援ネットワーク懇話会[、]の設立について、お話をしたいと思います。

本町の高齢化率も34%を超え、高齢者のみの世帯が全体の1/2。1/4は独居世帯となっていることから、高齢者を取り巻く問題が、“高齢化率の早さ[、]”から“高齢者人口の多さ[、]”の問題に変わってきました。

やすらぎの家や健寿苑の待機者は現在、町内の方で80人ほどですが、そのうち8割は、病院や老人保健施設、グループホームなど、施設に入所中の方で、在宅での待機者は2割となっていますが、今の経済状況などから、新たな施設をどんどん建てて行く状況にはなく、むしろ住み慣れた自宅で、自分らしい生活をして行く環境を作ることが、必要だと考えています。

核家族化、高齢化が進んでいく中で、買物に行くのも大変だが、施設に入るほどでもない状況の方もおり、高齢者本人がどうやって生活をしていくか、将来に対する社会的な不安が高まっています。一方で、家族にとっても、心身ともに負担が増大していく環境にあり、高齢者の方はもちろんですが、家族の方の不安を解消するため、どんな取り組みができるのか、町全体としての課題として取り組む時期に来ています。

高齢者の問題を考えることは、高齢者だけではなく、それを支える家族、若い人たちの生活を支えていくことでもあるのです。

私の公約にも掲げ、今年度の町政執行方針でも謳いましたが、高齢化の進行に伴う、生活や介護の不安解消に向けて、行政の施策、民間事業者のサービス、そして地域コミュニティを有機的に結びつけながら、町民が連携し、町全体で、ともに支え合う『高齢者支援ネットワーク』の実現に向けて、町民の皆さん、関係機関との連携について、検討を行うこととしました。

国に向けて、過疎地域の実情を伝え、国政の場での議論も求めていきたいと考えていますが、住民の生活を預かる現場の自治体の長として、生涯に亘る安心安全なまちづくりをしていきたいと考えています。

以上の趣旨から、高齢者支援に関する有識者11名とJA新すながわ、商工会の役員の方、それぞれ1名からなる13名を私の方で指名させていただき、6月13日に「高齢者支援ネットワーク懇話会」を設立し、高齢者問題に関して、大きな視点を持った町の方角性について議論をスタートさせました。

第2回の懇話会は7月22日に開催し、フィンランド在住の山田真知子さんが、北海道に来ておられたことから、山田さんに「フィンランドの高齢者支援状況」について、お話をさせていただきました。後ほど、事務局から懇話会の内容について、少し説明をさせますが、今後も2カ月に1回程度の割合で、高齢者問題に特化した議論を進めていきたいと考えています。

以上、私より、町政運営に関する主な動向についてお話をさせていただきました。

さて、本日は町民委員会 第2期の任期が10月までということで、この3カ年間のまとめを行いたいと考えておりますが、奈井江町まちづくり計画後期実施計画の策定や子育て支援策など、町の重要施策について、忌憚のないご意見をいただいた内容について、報告書案を配布させていただいておりますので、よろしくお願ひします。

5. 議題

(1) 高齢者支援ネットワークについて【資料2】相澤係長より内容を説明

(町長) 懇話会の委員の方のお話で、お年寄りが一人暮らししている家で、建物が非常に古くなってきている。もし倒壊したりすると歩行者や隣家など非常に危険であるし、心配である、とのことでした。隣近所の情報をお互いに共有し、みんなで考え、本人にも理解いただく、というのをこの懇話会でも議論して行政としても考えないといけません。

この懇話会では、どのようなネットワークづくりをするのか、支え合い協力していくのか具体的な話もでてきており、非常に有意義なものとなっています。

・質疑応答

(委員) 高齢者で困るのは、やはり冬の除雪でないかと思います。除雪の委託については、シルバー人材センターや商工会でも行っていますが、まだまだ人材が不足しています。できればボランティアでなくても結構なので、60歳以上の方で健康維持のために除雪をしていただければと思っています。

(委員) 社会福祉協議会で行っている日常的な金銭管理などのサービスを、実際にどのように申し込めばいいのか、サービスを提供する人がどのくらいいるとかこの資料だけでは分からないので、もっと周知が必要なのかなど。どこに行ったらその方のためにいい方法に繋がるのか。役場に行けばいいのだけれど、役場は敷居が高いという方は多いと思います。あと、高齢者とまとめて言っていますが、サービスを必要としている人と、まだまだサポートに回れる人と両方いると思うので、年代が近い分、高齢者の方々の中で支え合うということをしたらいいと思います。

(町長) 町や社会福祉協議会などからの様々なサービスを本当に活用しているか、熟知しているか、その広がりが地域のネットワークになっているかどうかということです。

縦割りのサービスはたくさん作っているが、実際それが地域コミュニティとして横の繋がりでお互いに協力しながらやっているかということです。今ご意見のあったことも含め、今後考えるべき課題です。

(委員) 奈井江町は災害は少ないが、例えば地震があった時に、自分の班の中で体の不自由な方が一人か二人いると思う。その人のことを誰が救ってあげるのか、誰が避難場所に連れて行ってあげるのかという事です。そこまで考えてほしいと思います。

(碓井課長) 高齢者ネットワーク懇話会の委員の皆さんには資料としてお渡ししたのですが、今年の春に空知中部広域連合で高齢者に困りごと書いてもらう意向調査を行いました。時期的なものもあったのですが、一番困っているのは

除雪や、身の回りのこと、自宅の家の周りの草取りをやりたいのだけれどできないとか、買い物や通院が体力的な事もありできなくなってきた等、身近な部分での困りごとをどう対処していくかということを議題として懇話会の中で話合っていきます。

次に災害の時にとのお話ですが、3月の震災を受け行政として国・都道府県も全て防災計画の見直しを行い、それらを受けて、町も作業に入っているところです。加えて要援護者の支援計画、体の不自由な人が何かあったときどうするかということで、個人個人の台帳を作り、何かあったときには誰が誰に助けてもらうというように、町内の人たちと情報共有をしたいということです。そこには民生委員や地域の関わりのある方にも参加していただきます。行政が個人情報を持ち出してバラまく訳にはいかないので、まずは住民のみなさんから手をあげていただき、時間はかかるかもしれませんが構築していきたいと思います。

(委員) 今、お話をお聞きして大変良かったと思っています。後期高齢者というのは国で決めた75歳ということですけど、高齢者には個人差もあるし、自分は高齢者と思っていない人もいます。私もボランティアで何かお手伝いしようと思うのですが、相手が理解してくれないとなかなか難しいものがありますので、そのような組織があるとありがたいし、心おきなくボランティアもできます。

(町長) 一般的には65歳以上を高齢者と言っています。75歳以上の方を後期高齢者という言い方は撤回しているみたいですが、国の施策として高齢者とは別枠にしようということです。国民健康保険に加入している場合でも、後期高齢者は別ということにしたのが世論の反発となっています。私はまだまだ高齢者ではない、という人がどんどん増えてくれればと思います。

(委員) 高齢者ネットワーク支援懇話会は地域・自治体の果たす役割は多いと思うのですが、助け合いチームが現在35チームあって、7行政区ができてないというのが気になります。町内会イコール助け合いチームということが実質的になっていて、あえてそれを作る必要がないからそのような状況なのか、チームによって温度差があると感じています。

(岩口課長) 社会福祉協議会で小地域ネットワークを設置しており、7つの行政区が未設置ということです。それぞれ理由があると思うのですが、この懇話会の中では小地域ネットワークに限らず、横の繋がりについても議論していきたいと思います。

(2) 子育て支援について

(相澤係長)

話は前後しますが、資料4の活動報告書案の一番最後のページを見ていただきたいと思いますが、この第2期の町民委員会について、大きく2つのことを皆さんに議論いただいたのですが、一つ目が第5期まちづくり計画の後期実施計画に係わる意見交換、もう一つは、子育て支援策です。いろいろ議論いただく中、行政や民間もそうですが、お母さん達が、いろいろな制度を知らないのではというご意見がありました。そこで、A4の半分くらいの子育てハンドブックを資料として配布して説明し、より良いものを作

ろうという議論をしました。改訂版をほぼ完成に近づいてまいりましたので、今回皆さんにお配りをしています。内容について担当のおもいやり課長より説明いたします。

【資料3】子育てハンドブックの要旨を岩口課長説明

【資料5】子育て支援予算に関する主なものを相澤係長説明

・質疑応答

(委員) 従来のものに比べるととても良くなっていると思います。27ページの児童虐待について、せっかくなので、通報する電話番号を児童相談所や相談ダイヤルなど連絡先を入れればと思います。

(委員長) 任意の予防接種について、該当者に対してどれくらいの接種率なのでしょうか。来ない人はやはり来ないのでしょうか。

(小澤事務長) すこやか健診については小学校3年生から高校生3年生までで35%くらいが現状です。高校生で町外から通学している生徒は保健センターで受診することができるのですが、浸透していないこともあり受診率は低く、学校側との連携が重要になってくると思います。

任意の予防接種の、ヒブ小児用肺炎球菌ワクチン・子宮頸がんについては22年度からはじまりました。一時期ワクチンの供給が不足している状況もあり接種率も伸び悩んでいましたが、今年度入っても問い合わせが多く、関心が高まっていますので、今後も受診率向上が期待されます。

(委員) 子どもの虐待の問題については、目に見えない部分が多いと思います。親と地域の人に係わる機会を多く持つということが基本になってくると思います。また、図書館や児童館など文化的な施設は、あればあるほど子どもたちにとって良いと思います。児童館などはもっと色々お金をかけて子どもたちにとって魅力的なものになればと思います。

(岩口課長) 奈井江町には児童館が3箇所あり、1日平均3館で60人くらい来ています。昭和40年代に建築して古い建物なのですが、一昨年国の交付金を活用して内装・外壁・屋根など改修しました。今後も必要な箇所には予算をつけていきたいと思っています。

(委員) 子どもたちが元気でいればマチも元気になると思うので、私たち子どもたちに声かけをしながら、元気をもらいながらやっていけたらいいのかなと思います。

(町長) 全くその通りだと思います。皆さん方の意見を活かしながら子どもにとってより良い環境をつくっていかうと思います。

(委員) うちの施設の職員の話なのですが、産休明けで職場に復帰しようとしているのですが、保育所に預けようとしても空きがなくて入所できない。他の町での広域保育ということで奈井江町の保育所から教えていただけるのか、どのような仕組みなのか。

(岩口課長) 保育所は現在3歳未満児くらいまでが、定員いっぱいとなっており、4歳以上になると定員にまだ余裕があります。一人の保育士がみることができる子どもの人数の基準が低年齢になるにつれ少ないためです。子育てハン

ドブック 15 ページの『託児所手つなぎ』や、広域入所の場合は奈井江から美唄や砂川の保育所も活用することができます。

- (委員長) 子育て支援の前に、子どもをつくる環境の話もありますよね、出会いの場も必要ですが。
- (副町長) 農協、商工会、町内の立地企業にお願いしながら、出会いの場をつくるため「ミート・ウイズ」にまずは登録してくださいとお願いはしています。なかなか、自分の収入も含め色々個人情報を登録するというに抵抗が強いようです。いずれにしてもご本人が積極的に係わろうという姿勢が大事だと思いますので、今後もバックアップしていきたいと思います。

【資料 4】第 2 期まちづくり町民委員会活動報告書案を遠藤主事説明

・質疑応答

- (委員長) ただ今事務局より 3 年間の活動報告書の説明がありました。何かこの報告書について、分からない点がありましたら、ご意見ください。
- (委員) 10 ページの光ブロードバンドについて、おかげさまで 9 月に全町に配信できるようになりました。このようなメリットを生かしていただきたい。例えば独居老人に対して回線を活用していただければ、高齢者のネットワークにも有効だと考えています。
- (碓井課長) 今回素案ということで作成していますので、次回開催の時にご意見いただき、最終的にまとめることができればと思います。
- (委員) 文言で気になったところがあったのですが、9 ページで奈井江商業高校の父兄が～とあるのですが、父兄は今使わないので、保護者に訂正していただければと思います。
- (委員長) 今後この町民委員会、2 期はまもなく終了しますが、第 3 期もあると聞いています。3 期目に向けての課題についても、次回お聞かせいただければと思います。(4) その他について、事務局から何かありますか。
- (委員) 学校統合について、もう統合の是非という段階ではないのですが、前に文化ホールで全町対象に説明会に行ったのですが、江南小の保護者はほとんどいなかったように思います。江南小学校の方は関心が薄いのかと思いました。
- (鈴木次長) 統合の関係については、8 月 1 日の区長文書にチラシを入れ、経過とか統合に向けた大まかな内容とかをお知らせしています。統合については 3 月議会で諮問に対して答申をいただき、奈井江町としては 3 月 18 日に統合を決定しました。それを受けて教育委員会としては具体的に統合に向け先月、準備委員会を設置してその中でどのように進めるかをその都度チラシで住民の皆さんにもお知らせしていきます。
- 今回の説明会についても、江南校区の方々にも参加を呼びかけたのですが、結果的には少なかったように思います。